

ごあいさつ

大会長 細江 浩典

(名古屋第二赤十字病院 リハビリテーション科)

日頃は一般社団法人愛知県理学療法士会ならびに特定非営利活動法人愛知県理学療法学会の活動に格別なご支援を賜り、誠にありがとうございます。

今回、第23回愛知県理学療法学会大会を、名古屋ブロックが担当となり平成25年3月10日(日)に愛知県産業労働センター「ウイंकあいち」にて開催することとなりました。

戦後最大の東日本大震災に対する復興支援活動が今なお続いている状況下での大会開催であり、大会長を務めさせて頂くことを大変光栄に思うとともに、その重責に身が引き締まる思いでございます。さて、今回のテーマは、「予防」といたしました。

近年、「健康寿命」という言葉が使われるようになり、要介護状態で過ごすより人間が人間らしく誇りを持って生きること、つまり「生活の質(QOL)」を高い次元に保ちつつ生きていくための方策に関して着目されるようになりました。

国民が「健康寿命」を延ばし、最高に幸せな生活を享受するためには、まずは疾患に罹患しないこと、また再発させないことが重要であることは論を俟ちません。

この学会大会が、地域に暮らす人々の幸せに結びつくために、我々理学療法士に“何ができ”、理学療法士は“何をすべき”なのかを、「予防」という観点から、会員の皆様と一緒に考える場になればと願っております。

本大会では、一般演題数66題(口述発表39演題、ポスター演題27演題)の応募を若い会員を中心に頂きました。また、本大会のテーマ「予防」に沿ったシンポジウムおよび特別講演を企画いたしました。

シンポジウムでは、急性期医療を担う立場からNPO法人名古屋整形外科地域医療連携支援センター理事長の佐藤公治先生(名古屋第二赤十字病院副院長)に、回復期医療を担う立場から同NPO法人監事の寺本隆先生(陽明寺本クリニック院長)に、そして生活期医療・福祉を担う立場から同NPO法人事務長の銭田良博先生(トライデントスポーツ医療看護専門学校、株式会社ゼニタ代表取締役)に、それぞれの立場での現在の取り組みと課題を踏まえ、今後の「予防」活動についてお話し頂きます。

特別講演は、脳神経系疾患、運動器疾患、そして内部障害の各領域でご活躍されている3名の先生にお願い致しました。日本での認知症研究の第一人者である国立長寿医療研究センター内科総合診療部長 遠藤英俊先生には「認知症の予防とリハビリテーション」を、体幹の筋萎縮を研究テーマにしておられる、国立長寿医療研究センターの脊椎外科医長 酒井義人先生には「高齢者慢性腰痛症の病態と予防」を、そして名古屋大学大学院医学系研究科教授 山田純生先生に「脳梗塞理学療法30%は再発により徒労に終わる？」と題して講演をお願いしております。日々の臨床において、我々理学療法士に期待されている事は何か、足りないものは何か等、専門的視点からご教授を頂戴できるものと期待しております。

学会大会の最後を飾る市民公開講座は、中京大学スポーツ科学部教授 湯浅景元先生に講師をお願い致しました。タイトルは「トップアスリートに学ぶ健康法」です。湯浅先生は健康・長寿に関して多数の著書があり、またテレビ出演や講演などを通して健康づくりのために、運動の大切さを普及していらっしゃいます。現在、中京大学スケート部部長として、所属している浅田真央、小塚崇彦選手らフィギュアスケート選手の指導教育にもご尽力されておられます。ハンマー投げ金メダリストの室伏広治選手は湯浅ゼミの出身者であり、ロンドンオリンピックの秘話を聞くことができるかもしれません。

会場は名古屋駅から徒歩で数分の所に立地しております。学会大会での討論の合間には名古屋駅周辺に脚を延ばすなどして、充実した時間を堪能して頂ければ幸いです。

是非とも、皆様お誘い合わせの上、第23回愛知県理学療法学会大会に多数ご参加いただきますよう、心よりお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員諸氏をはじめ多くの皆様のご協力とご支援に対し、心より御礼申し上げます。